

互いに胸襟を開いて

株式会社電通 最高顧問 成田 豊

今日、日中関係は非常に親しく深いものになっております。

朱建榮さんとは2003年にお会いしましてから、まさに今日のシンポジウムのフレーズではありませんが、戦略的な友好関係をどう結ぶかということで、日本の財界人二十数名と勉強会を行っております。日中の経済問題に関して忌憚のない率直な討論、討議をしようと続いております。

今年は、安倍前総理が中国の胡錦濤総理と話をして、日中友好35年スポーツ文化交流年としようということで、経団連会長御手洗さんを委員長にして、日中友好のいろいろなイベントを行っております。中国各地で、この委員会が認可した事業をすでに400行っております。

委員会が直接行った事業としては、9月5日に王府井で約10万人を集めて行った「日本の祭りイン北京」があり、盛況裡に終了しまして、

中国人の方も本当に喜んでくださいました。さらに最後のファイナーレとして、谷村新司、松任谷由美らが35周年を祝して、中国の歌手と日本の歌手が相互に歌いあうイベントを北京人民大会堂で行うことになっています。人民大会堂といい王府井といい、よく考えたよき場所であり、またよく許していただけたと思っています。

このようなイベントを通して、国民が胸襟を開いてお互いがお互いを理解し思いを致すことが、文化交流の原点であろうと思っています。

以上のようなご紹介をしまして、日本華人教授会議創立4周年の祝辞とさせていただきます。この会がますます盛んになることを願ってやみません。



もっとアジアに軸足を

岩手県立大学 学長 谷口 誠

まず、日本華人教授会議がこれまで4年にわたって日中親善のために学术交流を通じていろいろな形で努力してこられたことを高く評価し、敬意を表したいと思います。また、現在の日中関係を見るときに、本日のテーマである「戦略的互惠関係の構築に向けて」は非常にタイムリーかつ重要なテーマであると思います。

ご承知のように、昨年10月8日、日中両国首脳が「戦略的互惠関係の構築」を目指して合意文書を交わしましたが、これを単に政治的なスローガンに終わらせてはいけないと思っています。

日中がお互いに良きパートナーとして信頼関係を醸成していかなければ、東アジアが目指す実効性のある東アジア共同体の構築は望め

ません。21世紀は、アジアがダイナミックに発展し、世界の最先端になるでしょう。日本は欧米的な価値観外交を進めるだけでなく、もっとアジアに軸足を置いて広く眼を開いてほしい。

他方中国はアジアの発展のためにお互いに協力しましょうという「亞洲和諧」（アジアの調和）構想を打ち出しています。これはすばらしい哲学的な構想です。ぜひ中国もこの調和のとれた発展の実現に向けて努力してほしい。

日中間は、東アジア共同体の問題以外にも、大きな課題をかかえています。まず、環境問題

(4頁の下に続く)

